



一吟徹心霊
一曲能興国

錦友…第304号

(令和3年1月1日)

・編集・
一般社団法人詩吟朗詠錦城会
・発行・
一般社団法人詩吟朗詠錦城会
東京都港区麻布十番2-4-14
電話:東京03-5484-3301(代)
〒106-0045



一般社団法人詩吟朗詠錦城会
会長 城戸城濤

「恐れ過ぎず
されど侮らず」

昨年の「錦友」一月号は、三百号の記念号でした。私は、その冒頭のご挨拶で令和の名に恥じぬ平和な良い年となる事を願っております。

謹んで年頭のご挨拶を
申し上げます

本会顧問の諸先生をはじめ、吟界各方面の皆様、新しい年を迎えお慶びを申し上げます。昨年、新型コロナウイルスの感染拡大により思うように活動ができませんでしたが、今年は、良い一年になりますよう祈っております。本年も変わらぬご指導、ご鞭撻をいただきますようお願い申し上げます。

令和三年 元旦

詩吟朗詠錦城流 宗家 山元錦城
詩吟朗詠錦城会 会長 城戸城濤

能の状態となつてしまいました。初の試みとして企画した京都での独吟による師範吟詠発表会の中止を決断するまでの、宗家のご心労は並大抵のものではありませんでした。会員の皆様にも様々なご迷惑、ご心配をお掛けしたと存じます。幸い、多少の混乱はありましたが、結果的には、中止して良かったと思っております。

城戸城濤

その後も新型コロナウイルス感染症の収束は見えず、ほとんどの行事、催事が中止または延期となり、飲食サービス業を始めとするあらゆる経済活動に甚大な影響を与えながら現在も尚、世界中で猛威を振るっています。我が会も、創設以来初めて、

詩吟全国大会および詩舞全国大会の中止を余儀なくされました。誠に残念の極みでありました。4月の東京都本部、5月の福岡県本部、9月の広島県本部の各大会が中止となり、準備に多くの時間を費やして来られたであろう各県本部の役員、会員の皆様の無念を思うと、やりきれない思いが致します。

6月の師範会・総会も中止の止むなきに到り、役員改選の時期と重なったため、その手続き上の問題や、文書による議決の事務処理など、事務局のご苦勞には頭の下がる思いです。何しろ、世界のスポーツの祭典であるオリンピックが本年に延期されるという前代未聞の状況の中で、現代人が誰も経験したことのない対応をしなければならなかったのですから、無事に一年を乗り切り、新しい令和三年の新春を迎えることが出来たことに感謝しなければならぬと思います。

幸い、私の知る限り、我が錦城会会員が新型コロナウイルス感染症にかかったとの報に接していないことは、誠に有難いことです。

ございます。どうか新しい年も「恐れ過ぎず、されど侮らず」の精神で、コロナ禍の中でも、吟詠・詩舞・琵琶の発表が出来る方法を探りながら前向きに進んで参りたいと存じます。

本年度の全国大会は、北海道函館市で開催されます。北海道と聞くと感染者の数が心配されますが、主に札幌市の増加が報道されているのであり、函館は低い数字で推移していると認識しております。どうか、恐れ過ぎずに、しかも侮ることなく、知恵を絞って新しいスタイルの全国大会の開催に皆様のお知恵を貸して頂きたいと存じます。

当会は、本年、創設67年目を迎えます。昨年も、丸山城壮宗範を始め、創設以来錦城会を支え引つ張って来られた先輩達の訃報に接することとなりましたが、これら先輩達の遺徳を偲びつつも、若い会員増強のため諸施策を本気で考えていかなければならない時期に来ていると考えます。

「恐れ過ぎず、されど侮らず」。この一年が皆様にとり、良い年となりますようお願い申し上げます。

本部の動き (2.9.21より 2.11.15まで)

10月2日 拡大常務理事会
10月12日 広島県本部の師範指導と昇格審査
11月7日 滋賀県本部の昇格審査

コロナ禍で(その2)

前号の「コロナ禍で」に続いて、今号も4名の本部長さんから届いた投稿をご紹介します。 (S)

コロナ禍での行事開催

神奈川県本部長 佐藤 城孝

令和2年度の行事計画(案)

を総会に提案する段階でコロナ禍により詩吟の稽古ができない状況になってしまいました。自宅で稽古している教授師範は、コロナ感染状況を観察しつつ稽古をしました。多くの教場は公共施設を借りていますので、3月から5月(会場により6月)まで稽古ができませんでした。そのような状況の中で神奈川県本部は行事を開催するため種々検討を続けました。

行事を開催しなければコロナに感染する恐れはなく、無難な選択です。しかし「このままでは会員の減少に歯止めが掛からない」、このことが常務理事会共通認識でした。会員の皆さんに発表の場を提供したい、その一念で企画運営してきました。そんな時期に突然、丸山城壮宗範のご逝去の訃報が届き、ますます混乱したのは言うまでもございません。しかし、丸山宗範がご存命ならば、発表の場を提供することを最優先すべしとおっしゃると推測し、計画は実施

することにしました。

7月23日に、道場吟詠部合同温習会を開催し、この冒頭に丸山宗範のご冥福をお祈りする黙祷を、また、世話人代表の挨拶時には、平野城睿大師範による弔吟を捧げました。

9月29日に師範研修会(総会に相当する勉強会)、10月16日大寿吟詠発表会(70歳以上を対象に先輩を敬う会)を開催しました。今後の行事は、令和3年1月17日に神奈川県の初吟会を開催します。

- ① 各行事の開催にあたっては、三密対策は勿論ですが、会場が指定した基準より厳しい条件を設定し開催しております。
- ② 会場ではアルコール消毒液で、手と指の消毒をする。
- ③ 受付時に、非接触体温計で体温測定する。(氏名、電話番号、及び体温を記録)
- ④ 舞台から4m以上離れた客席から使用する。
- ⑤ 会場指定の人員の50%以下で開催する。一般客の見学はお断りする。

- ⑥ 出吟15番ごと(約30分)に5分間の休憩を取り、ドアを開放して換気し密閉を避ける。
- ⑦ 会場の椅子は前後左右ひとつづつ空けて着席する。
- ⑧ マイクは適時にウエットティッシュ(アルコール)で拭き取る。
- ⑨ 舞台の出吟者以外は、会場では全員マスク装着する。最後に私たちはコロナ禍に学び、詩吟を今まで以上に楽しみます。詩吟は喉を鍛え誤嚥性肺炎に掛かりにくくします。日頃から詩吟を楽しみ、健康維持に努めましょう!

錦城会と私

茨城県本部長 海野錦麗香



海野錦麗香

誰もが想像もししていなかった新型コロナウイルスが世界中に蔓延する中、錦城会の先生方、会員の皆様にかれましてはつづがなくお過ぎの事と思えます。

私と錦城会との出会いは、水戸市民会館にて開催されておりました錦城会県大会の見学まで遡ります。約48年前の出来事でしたが、錦城会の皆々様の吟に接した私は、その迫力に圧倒され、大変感激したことを今でも鮮明に覚えております。 思い起こせば学生の頃、私は漢文の授業が一番の楽しみでし

た。先生の授業を聞きながら漢詩の歴史的な背景やその情景などに思いを馳せておりました。県大会の詩吟を見学している内に、若い頃からの漢詩の世界への思いと相まって、いつか私も錦城会に入会して詠ってみたいという思いを強くした事を覚えております。

当時、主人の仕事の関係で転勤生活を送っておりましたが、時々嫁ぎ先に帰ると、いつも両親が詩吟についての楽しい話をしてくれました。そんな両親から私は一編の教本を貰い、それを大切にしながら自分なりに口ずさんでおりました。

その後、主人は水戸の近くに転勤となり子供たちも成長し、時間の余裕が出来たので、満を持して錦城会に入会し、稽古に励むようになりました。片道1時間の運転が楽しかったことを覚えております。

当時、県本部長を城戸城浩先生が勤めており、両親と私は共に城戸錦寿先生にご指導を頂いておりました。入会を決議してから3年後の昭和52年2月の話になります。

周知の通り、茨城県は詩吟が盛んな土地で、他流試合のコンクール等にも参加しながら錦城流の道突き進んで参りましたが、さらに師範指導のお許しを頂き、教場を開いて生徒さん達と楽しくお稽古を続けてきましたが、今年の2月頃より拡散し始めたコロナウイルスの怖さと恐ろしさを目のあたりにして、お教室のお稽古もやむなく中止せざるを得なくなりました。

錦城会の数々の行事は元より県内の数々の詩吟行事がすべて中止となり、何時も楽しくお稽古をしていた皆さんも逢えなくなつた時、詩吟のお稽古が如何に充実した大切な時間であったかと痛感致しました。現在は感染予防対策をしっかりと徐々にお稽古も再開しております。

幸いにも茨城県本部には錦城会会長、城戸城濤先生がいらっしやいますので、常日頃お力添えを頂き、県本部の運営と会員増強に努めて参りたいと思っております。

極め人・初代宗家との縁 (えにし)

福岡県本部長 東本 錦伶



東本錦伶

花の咲かない冬の日は

下へ下へと根を伸ばせ
(不遇な時こそチャンスだと思え)

コロナ禍で様々な行事が中止
また制限され、県・支部単位で
の行事は無理としても、少数の
発表ならばと、門下の教授師範
20名の根を伸ばす機会を「一吟
一編会」と題して企画。12月20
日13時から、4時間、大野城市
公民館大ホールに於いて人と
人、時間のソーシャルディスタ
ンスを取り、ゆっくりとした研
修発表会、吟題が重なっても良
し。後半は、二十七編「小諸な
る古城のほどり」の研修。
私も含め、皆さんが少しでも
若い内にとの思いからの企画。
一編からと指定したのは、初代
が錦城流を世に打ち出した思い
入れの深い、言わば処女作であ
ること、指導用の一編の発表に
ならないこと、流祖は常々、指
導に引つ張られて自分の技量が
一旦下がる傾向になるので、自

分の発表用は桐の箱に入れてお
くこととおっしゃられていまし
た。

流祖にお世話になった4年間
の内弟子時代を振り返りなが
ら、当時、私に教え語って下
さった言葉・技法等々、次の世
代に伝える努力・必要性を感じ
ながら指導させて頂いてる次第
です。

内弟子生活の4年間は、私に
とっては、幸いなことに流祖が
地域の教場稽古を止め、地方に
出向こう以外は、在宅時間が多
くなった時期に入りました。朝
に夜に稽古をつけて下さり、初
代曰く「貴方には十年分教えて
いるからね」と口酸っぱく言わ
れたことを懐かしく思い出しま
す。

入門三か月の頃、門司支部温
習会に流祖ご臨席。最後の講
評の折、「貴方、前に出てらっ
しゃい」と指名され、「太田道
灌」の試験台に私を指導されま
した。「なかなか良いものを持っ
ているよ、頑張つてね」と腕を
握つてくださった感触、それか
ら4年を経た頃、内弟子にとお
声かけがあり、22才の思考で、
仕事も捨て収入も捨てることに
なるが「自己投資をしよう」と

答えを出し、上京し、お世話に
なることに。寝食を共にし、芸
道以外の事柄も色々ご指導いた
だいたこと、かけがいのない人
生。芸道を極めた流祖との縁(え
にし) あつたればこそ55年もの
歳月をひたすらに歩んでこれら
れました。

仏壇前の流祖の写真の前に会
員の皆様から頂いた謝礼をお供
えし、毎朝「ありがとうござい
ます。」と感謝をし、このコロ
ナ禍に於いては、全国の会員を
どうぞお見守り下さいと唱えさ
せていただき、一日の始まりと
しています。

錦城流と私

愛知県本部長 鍛冶 錦代

私が錦城流の詩吟と出会った
のは、福岡教育大学2年生の時
でした。当時、全国の学芸大学
は教育大となり、福岡でも4地
区に分かれていた本校と分校は
昭和41年後期から宗像郡赤間の
城山(じょうやま)の麓に統合
されました。

ある日、「来たれ、詩吟部へ！」

の貼り紙が目にとまりました。
高校時代に詩吟クラブに所属し
ていた後輩の呼びかけでした。
中学時代の運動会で「太田道
灌」の詩吟入りのダンスを皆と
踊つた経験があつたので、早速
同好会に入りました。学生なの
で、錦城会への入会はず九文
連(九州文化サークル連盟)に
所属して、他校の他流の学生た
ちと交流していました。

私壇前の流祖の写真の前に会
員の皆様から頂いた謝礼をお供
えし、毎朝「ありがとうござい
ます。」と感謝をし、このコロ
ナ禍に於いては、全国の会員を
どうぞお見守り下さいと唱えさ
せていただき、一日の始まりと
しています。

が、バス停から城山の中腹の校
舎までの急な坂道を息を切らし
て登つて来てくださり、毎回熱
心なお稽古をしてくださいまし
た。私達は、吟の上達を目指す
べく毎日、昼休みには学生会館
のバルコニーから城山の頂に向
かつて大声で吟じる事を日課に
していました。

4年生になると、就職の難問
が起きました。当時は「日本列
島改造論」で、地方から大都会
へ人口の移動が盛んな頃でし
た。特に、福岡県下の沢山の炭
鉱が閉山に追い込まれて、人口
の減少が加速し、昭和43年には、
県の教員採用試験が行われない
状態となり、就職は他県に出る
しかない時代でした。私は名古
屋にいた姉を頼つて市内の学校
へ赴任しました。新しい生活は
大変でしたが、辛い嬉しいこと
に、学区内に錦城流名古屋支部

◆催事ののご案内◆

(令和2年11月〜3年3月)

◆本会主催 ◆本会後援

◆師範吟詠発表会

・2月25日(木)〜26日(金)
・からすま京都ホテル(中止)

を起こした箕浦錦静先生がい
らっしゃつたのです。早速錦城
会に入会し、土曜日の午後と月
曜日の夜は先生のお手伝いで、
大好きな詩吟を続けることが出
来ました。

初めて参加した全国大会で、
流祖山元錦城先生の吟を拝聴し
た時は、雷に打たれたような衝
撃を受けたことを今でもはつき
りと覚えています。錦城流の素
晴らしさに魂が揺り動かされた
のです。ちょうどその頃、錦城
流のコンクールが始まりました
た。私も東京の決勝に出させて
頂き、賞を頂いたことは、大き
な励みになりました。そして、
全国大会には素晴らしい吟者が
たくさんいらつしやることを知
り大いに刺激を受けました。
箕浦先生からは、「今の吟に
満足してはいけません。」と言わ
れ続けました。先生のおかげで
今日の私がある事を感謝しなが
ら、コロナに負ける事なく、錦
城流の美しさと錦城会の絆の強
さを信じて、今後の歩みを続け
ていきたいと思えます。

「コロナ禍での甲良支部温習会」

新型コロナウイルスという見えない魔物に日常生活が制約される毎日が続いております。甲良支部におきましても、ことごとく行事を中止せざるを得ない状況となり、会員の皆さんと楽しい会話や笑顔あふれるひとときがお流れになり、寂しい思いであります。

久しぶりに滋賀県甲良支部温習会を、令和2年10月11日(日)に大堀公民館で開催することができました。会員21名のうち19人が参加し、手洗い・消毒を行



い、密接を避け、マスクを着用しての温習会ではありましたが、皆さんの熱のこもった独吟から元氣と勇氣をもらい、曇りがちであった心もスカッとしました。さらに稽古に励む思いが強くなりました。

今回の温習会はいつ頃開催ですか？もう少し内容を検討してはどうですか？お菓子かケーキぐらい出したらどうですか？と会員さんの積極的な意見が出てきており、喜ばしい限りであります。

今年度は、支部行事を中止せざるを得ない状況から、会員の意見を聞き、支部会費を9月分から当分徴収しないことになりました。予算の制約された中で新型コロナウイルスの感染防止の新生活様式に努め、支部行事をすべて中止するのではなく、会員の意見を取り入れながら、工夫に工夫を重ねて、少しでも行事を催していく事が大事ではないでしょうか。

詩吟という趣味を同じくする会員同士のつながりを大事にし、コロナ禍での甲良支部の存続を願うものであります。

(甲良支部 橋本城範)

新入会員の紹介

(10/12 & 11/21)

- 福岡城南道場 溝口久子
- 鹿児島支部 小田原拓輝
- 甲良支部 近辻俊子
- 長崎支部 西岡秀子 溝口義昭
- 諫早支部 山本芳弘
- 世田谷支部 中野里陽平

- *前号でお名前に間違いがあり
- 加藤城亥 (愛知県) 2・10 取得日
- 雅号 県名

◆新師範の紹介◆

- ました。訂正してお詫びいたします。(事務局)
- 玖珠支部 矢治夏子
- 日立支部 石井恵子

錦城流の教本に掲載されている 漢詩の作者(9) 乃木希典

乃木希典は、嘉永2年(1825)に長府藩士・乃木希次(まれつぐ)の三男として生まれ、幼少時の名は「無人(なきと)」とい

軍と対峙するが、この時、希典は明治天皇から賜った軍旗を奪われる失態を犯した。

い、体が弱い少年だったという。15歳で元服。将来について悩んでいた希典は、親戚筋でもあり、吉田松陰の叔父であり、松下村塾の創始者である玉木文之進を訪ねた。父の許しを得ずに来たことを激怒されるが、何とか門下生として置いてもらうことになった。ここでの生活で心身ともに鍛えられ、生粋の軍人魂が育まれたようだ。

その後、10歳年下の鹿児島出身の静子と結婚。順調に大佐、少将と昇進していくが、軍旗喪失で味わった鬱屈の思いは消えなかつた。陸軍制度の研究視察のためのドイツ留学を終えるのと、軍服を片時も脱がずに過ごしたと言われる。しかし、ストイック過ぎる生活、度が過ぎる生真面目ぶりは、軍首脳陣から疎ましく思われ左遷。

18歳で第二次長州征伐に長府藩報国隊として初陣。明治維新後は、新政府の陸軍少佐に抜擢され、青年将校への道をたどる。明治10年(1877)の西南戦争の際には、西郷隆盛率いる反乱

しかし、日露戦争にて第一旅団長として出征、一日で旅順を占領。その後、中將を経て台湾総督に就任。明治37年(1904)の日露戦争では、第三軍司令官として出征し、難攻不落といわれた旅順要塞を3回にわたって

総攻撃するも陥落できず、約6万人が死傷、その犠牲の多さに国内から批判が出た。そのため、指揮権を児玉源太郎総参謀長に移譲。結果的に、203高地を占領し、ここから停泊するロシア太平洋艦隊を砲撃したのである。この日露戦争で、長男の勝典(26歳)、次男の保典(24歳)の2人が戦死した。

明治39年、凱旋帰国した乃木希典は、明治天皇に報告、その際に涙を流して「仰ぎ願わくば、臣(私)に死を賜え」と平伏したという。これに対して、明治天皇は、次のような言葉を残されたという。「今は死ぬべき時にあらず。もし死を願うならば朕が世を去りてからにせよ」。

明治45年7月30日、明治天皇崩御、希典をこの世に繋ぎとめていた唯一の人の死であった。そして、大葬礼の日の午後8時過ぎ、弔砲の合図と共に寺の鐘が鳴り響く中、乃木夫妻は明治天皇の後を追って殉死。希典64歳、静子54歳。

編集後記

【参考資料】 和樂Med
明けましておめでとうござい
ます。なかなか行事が開催でき
ず、掲載する原稿が不足してい
ます。皆様方からの投稿をお待
ちしています。(S)